



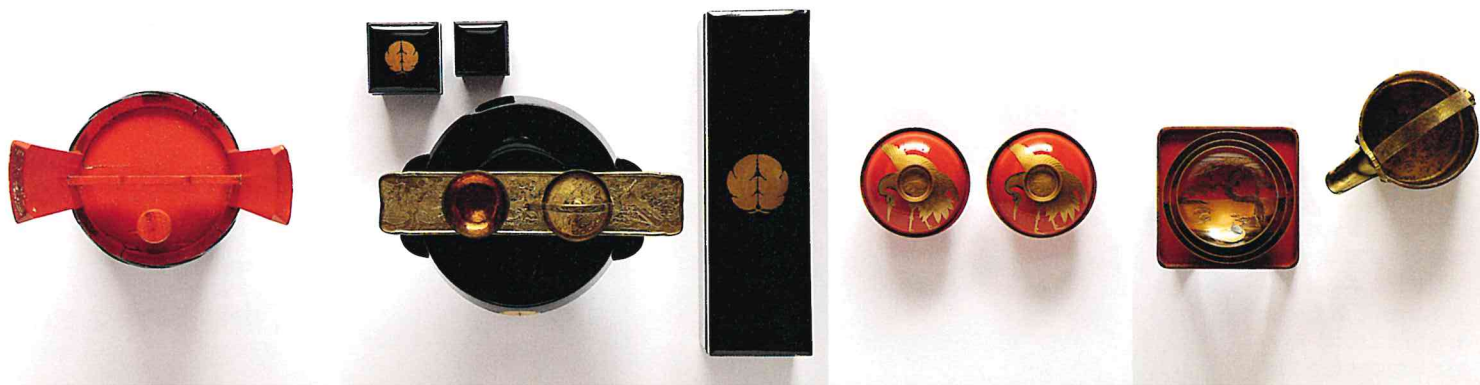
蔵元のお雛まつり 2019

蔵元に伝わる花嫁道具

2019年3月1日(金)～3月5日(火)

によいさんぼう
蔵元の奥座敷「如意山房」10時～16時 入場料：500円

同時開催 | 第21回 勝山のお雛まつり



結婚が家と家との結びつきであった時代、娘を嫁がせる時、愛娘への精一杯のはなむけとして、贅を尽くした花嫁道具を誂え、持参させました。当蔵元の衣裳蔵、器蔵にも、実家の家紋を施した花嫁道具が代々伝わっております。花嫁道具を観ていると、ひな道具がそのミニチュア版である事がよくわかります。

蔵元のお雛まつりを第1回から支えてくれた、五代目夫人美津子の memorial(メモリアル) の婚礼衣裳も展示します。昔の婚礼の祝意みなぎる華やかな世界に想いをはせて、蔵元のお雛まつりを心ゆくまでお楽しみくださいませ。

なお、勝山文化往来館ひしおホールでも、花嫁のれんを展示しますので、併せてお楽しみくださいませ。



上段左から

合わせ鏡 家紋入り[三代目夫人天宥(てふ)の調度品 明治10年]／三段重箱 輪島塗／花婿用祝膳[辻家定紋入り 昭和17年]／花嫁用祝膳[家紋入り 昭和17年]

御前酒角樽[昭和初め]／耳盤(みみたらい)・お歯黒(はぐろ)道具／惣朱吸物椀 金蒔絵／惣朱花月臺、高蒔絵三ツ組盃、金銅松竹鶴亀文提子(ひさげ)

末広 色直し振袖用 黒漆、白無垢用 象牙／掛袱紗(かけふくさ) 鶴亀文／笥迫(はこせこ) 白無垢用・色直し振袖用家紋刺繍[四代目次女泰子 昭和10年]／半襟 吉祥模様

如意山房 (登録有形文化財)

蔵元の奥座敷、三代目当主、辻武十郎が明治の初めに建て増し、代々の当主が多くの文人墨客を手厚くもてなした客間。昭和の初め、四代目源一郎は、与謝野鉄幹・晶子夫妻、河東碧梧桐とともに歌を詠み、書や絵を楽しみました。庭の借景となっている城山を如意嶽と言ったことから、京都の書家・漢学者、長尾雨山が逗留した際に賜った名称です。